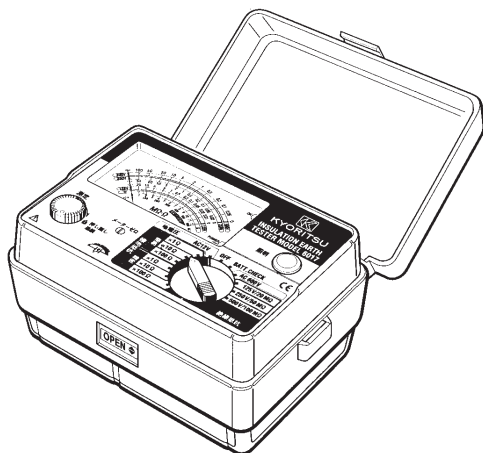


取扱説明書



キューメグアース

MODEL 6017



共立電気計器株式会社

目 次

1. 使用上のご注意	1
2. 特 長	4
3. 仕 様	6
4. 各部の名称	10
5. 測定準備	
5-1 電池のセット	11
5-2 零位調整（メーターゼロ零調整）	12
5-3 測定コードのセット	12
5-4 電池電圧の確認	13
5-5 動作表示LED	13
5-6 スケール板の照明	14
5-7 ストラップベルトの取り付け方法	14
5-8 ケース上蓋の収納方法	15
6. 測 定	
6-1 交流電圧の測定	16
6-2 絶縁抵抗の測定	18
6-3 絶縁抵抗の連続測定	20
6-4 測定端子電圧特性	20
6-5 接地抵抗の測定	21
6-6 精密測定	21
6-7 簡易測定	24
7. ラインプローブ用各種先端金具の説明及び交換方法	27
8. アースライン用アダプターの説明及び交換方法	28
9. 別売オプション品について	
9-1 コードリール付アースコードセットの使用方法	29
10. メーターカバー及び本体のクリーニングについて	30
11. 故障と思われる前に	31
12. アフターサービス	32

1. 使用上のご注意

本製品はJIS C 1010-1：電子測定装置に関する安全規格に適合して設計・製造の上、検査合格した最良の状態でお届けされています。

この取扱説明書には、使用される方の危険を避けるための事項及び本製品を損傷させずに長期間良好な状態で使用していただくための事項が書かれていますので、お使いになる前に必ずお読みください。

⚠警告

- 本製品を使用する前に、必ずこの取扱説明書をよく読んで理解してください。
- この取扱説明書は、手近な所に大切に保管し、必要なときいつでも取り出せるようにしてください。
- 取扱説明書で指定した製品本来の使用方法を守ってください。
- 本書の安全に関する指示に対しては、指示内容を理解の上、必ず守ってください。

指示に従わないと、怪我や事故のおそれがあります。危険及び警告、注意事項に反した使用により生じた事故や損傷については、弊社として責任と保証を負いかねます。

- 本製品に表示の△マークは、安全に使用するため取扱説明書を読む必要性を表しています。尚、この△マークには次の3種類がありますので、それぞれの内容に注意してお読みください。

△危険：この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡又は、重傷を負う危険性が高い内容を示しています。

△警告：この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡又は、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

△注意：この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容及び、物的損害のみが発生が想定される内容を示しています。

⚠危険

- 本器は低圧回路用に設計されていますので、600 V 以上の高圧回路では、絶対に使用しないでください。
- 本製品はCAT IIIに適合しています。CAT IIIを超えるカテゴリ（CAT IV等）に該当する場所では絶対に測定を行わないでください。
- 引火性ガスのある場所で、測定しないでください。
火花が出て爆発する危険があります。
- 電圧測定時に測定コードの先端金具で電源ラインを短絡しないように注意してください。人身事故の危険があります。
- 本器または、手が濡れている状態では絶対に使用しないでください。
- 測定の際には、測定範囲を越える入力を加えないでください。
- 測定中は絶対に電池蓋を開けないでください。
- 指定した測定方法及び条件以外で使用した場合、本体の保護機能が正常に動作せず本器を破損したり感電等の重大な事故を引き起こす可能性があります。
- 本製品の使用前あるいは指示結果に対する対策を取る前に、既知の電源で正常な動作を確認してください。
- 測定の際は指先等が、保護用フィンガガードを越えることのないよう充分注意してください。

⚠警告

- この測定器を使用しているうちに、本体や測定コードに亀裂が生じたり、金属部分が露出したときには、使用を直ちに中止してください。
- 測定コードを接続する際には測定スイッチを押さないでください。
- 本器の分解、改造、代用部品の取り付けは、行わないでください。
修理、校正、調整が必要な場合は当社または、取り扱い販売店にご依頼ください。
- 絶縁抵抗測定中及び測定終了直後には、被測定回路に触らないでください。試験電圧で感電の危険があります。
- 本器が濡れているときには電池交換を行わないでください。
- 測定コードはコネクタを根元まで確実にソケットに差し込んでから使用してください。
また、測定コードを抜き取るときには、本体をしっかり持ちコネクタ部を握って、抜き取ってください。






- コードの部分を握り引き抜くことは断線、感電等の恐れもありますので絶対にしないでください。
- 電池交換のために電池蓋を開ける際には、レンジスイッチをOFFにし測定コードを外してください。
- 測定コードのコード内部から金属部分または外装被覆と異なる色が露出したときは、直ちに使用を中止してください。

△注意

- 測定を始める前に、レンジスイッチを必要な位置にセットしたことを確認してください。
- 測定物に測定コードを接続したままレンジスイッチを切り替えないでください。
- 使用後は必ずレンジスイッチをOFFの位置にしてください。
また、長期間使用されない場合には、電池の液漏れによる腐食を防ぐために電池を取り外して保管ください。
- 高温多湿、結露するような場所及び直射日光の当たる場所に本器を放置しないでください。
- クリーニングには研磨剤や溶剤を使用しないで中性洗剤か見ずに浸した布を使用してください。
- 本製品は防じん・防水構造となっておりません。ほこりの多い場所及び水のかかる恐れのある場所では使用しないでください。
故障の原因となります。

記号の説明

本製品および取扱説明書には、以下のシンボルマークが表示されています。それぞれのマークが意味する内容をよく理解した上でご使用ください。

	二重絶縁または強化絶縁で保護されている機器を示します。
	人体及び機器を保護するため、取扱説明書を参照する必要があります。付いています。
	アースを示します。
	感電の危険がある部分を示します。
	本製品は、WEEE指令（2002/96/EC）マーキング要求に準拠しています。この電気電子製品を一般家庭廃棄物として廃棄してはならないことを示します。

○測定カテゴリについて

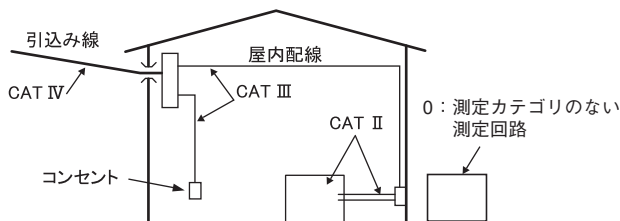
安全規格IEC61010では測定器の使用場所についての安全レベルを測定カテゴリという言葉で規定し、以下のように0～CATIVの分類をしています。この数値が大きいほど過渡的なインパルスが大きい電気環境であることを意味します。CATⅢで設計された測定器CATⅡで設計されたものより高いインパルスに耐えることができます。

0：測定カテゴリのない測定回路

CATⅡ：コンセントに接続する電源コード付機器の電気回路

CATⅢ：直接配電盤から電気を取込む機器の1次側及び分岐部からコンセントまでの電路

CATⅣ：引込み線から電力量計及び1次過電流保護装置（配電盤）までの電路



2. 特 長

キューメグアースMODEL6017は600V以下の低圧設備の絶縁抵抗測定及び配電線、電気器具等の接地抵抗測定に加え交流電圧、地電圧を測定できる、まさにオールマイティーな測定器です。

- 絶縁抵抗測定は、3レンジ定格（125/250/500V）を装備し、接地抵抗測定においても、精密測定3レンジ（12, 120, 1200Ω）および簡易測定3レンジ（12, 120, 1200Ω）を装備しております。

また、交流電圧AC600V、地電圧AC12Vのレンジを装備しています。

- オートディスチャージ機能付きで絶縁抵抗測定後は、被測定物に充電した電荷を自動的に放電し、またその放電状態はメーターで確認することができます。
- 暗い場所や夜間作業に便利なスケール照明を装備
- レンジスイッチとスケール板はレンジ毎のカラー表示ですので、どのスケール目盛を読めばよいのかが分かりやすく、また、読み間違いも防止できます。
- 絶縁抵抗、接地抵抗、地電圧、BATT.CHECKともに動作時には動作表示LED（赤色）が点灯します。また接地抵抗測定時には定電流が出力され、正常な測定状態であるかを常にOKランプ（緑色）により確認することができます。
- リモートプローブ付き測定コードを標準装備しており、プローブの先端金具は用途に合わせて交換が可能です。
また、絶縁抵抗測定、簡易接地抵抗測定ともに一本のプローブで測定できる設計ですので、プローブの付け替え作業等の手間が省け作業効率をアップさせます。
- 安全シャッターの採用により、誤使用を防止し、安全性がアップします。
- 衝撃に強い新素材（エラストマー）ケースを採用
- 精密接地抵抗測定用コードは収納に便利なコードリールと接地棒がセットで別売オプション品となっています。
- 肩掛けストラップベルトが付属されているので両手を自由に動かすことができ、作業をスムーズにかつ安全に推し進めることができます。

3. 仕 様

3-1 適用規格

JIS C1302 (絶縁)
 IEC 61010-1、-2-030 CATⅢ600V, 汚染度 2
 IEC 61557-1、-2
 JIS C 0920 (IEC 60529) IP40
 IEC 61326-1, 2-2 (EMC)
 環境規格 欧州RoHS指令適合
 IEC 61010-031

MODEL7103A・・・CATⅢ 600V (先端金具8256装着時)
 CATⅡ 1000V (先端金具8072装着時)
 CATⅡ 1000V (先端金具8017A装着時)
 CATⅢ 600V (ワニグチクリップ装着時)
 CATⅡ 600V (フラットテスト棒装着時)

(CATⅢ以上の環境で使用できるのは先端金具8256とワニグチクリップ装着時のみ)

※本体と先端金具、測定コードを組み合わせた際、測定カテゴリは、低い方の測定カテゴリ及び電圧値に制限されます。

3-2 絶縁抵抗計測定範囲および許容差

レ ン ジ	500V/100MΩ	250V/50MΩ	125V/20MΩ
定 格 電 圧	500V	250V	125V
測 定 範 囲	0～100MΩ	0～50MΩ	0～20MΩ
中 央 表 示 値	2MΩ	1MΩ	0.5MΩ
無 負 荷 電 圧	DC 500V + 20% - 0%	DC 250V + 20% - 0%	DC 125V + 20% - 0%
短 絡 電 流	1～1.6mA DC以内 但し【内部インピーダンス≥20kΩ×定格電圧値】をもつ電圧計で測定する		
定 格 電 流	0.5MΩ 負荷 0.25MΩ 負荷 0.125MΩ 負荷 1～1.2mA DC以内 但し【電流通過時の電圧降下≤500mV】の電流計で測定する		
第 1 有 効 測 定 範 囲 許 容 差	0.1～50MΩ	0.05～20MΩ	0.02～10MΩ
第 2 有 効 測 定 範 囲 許 容 差	0及び∞目盛を除く第1有効測定範囲以外の目盛 指示値の±5%以下		
0・∞目盛確度 (偏位の許容範囲)	目盛長の0.7%以下		

●動作不確かさ

絶縁抵抗計における動作不確かさ(B)は第1有効測定範囲(精度保証範囲)において、公称使用範囲内で得られる不確かさで、使用する機器の固有不確かさ(A)と、各影響量による変動(E_n)から下式で算出され、JIS C 1302では $\pm 3.0\%$ 以内と規定されています。固有不確かさ(A)は、標準状態における絶縁抵抗計の性能特性の不確かさを表します。

動作不確かさ(JIS C 1302)

$$\cdot \text{計算式 } B = \pm (|A| + 1.15 \times \sqrt{E_1^2 + E_2^2 + E_3^2})$$

A	固有不確かさ
E_1	姿勢の影響 (標準姿勢 $\pm 30^\circ$)
E_2	供給電圧の影響 (電池状態LEDが赤になるまで)
E_3	温度の影響 ($0^\circ\text{C} \sim 40^\circ\text{C}$)

3-3 接地抵抗計測定範囲および許容差 精密測定

レンジ	$\times 1 \Omega$	$\times 10 \Omega$	$\times 100 \Omega$
測定範囲	0 ~ 12 Ω	0 ~ 120 Ω	0 ~ 1200 Ω
出力電流	AC2.5mA MAX, 820 \pm 10Hz		
許容差	最大目盛値の $\pm 3\%$ 以下 (補助接地抵抗値が100 Ω および500 Ω のとき)		

3-4 簡易測定

レンジ	$\times 1 \Omega$	$\times 10 \Omega$	$\times 100 \Omega$
測定範囲	0 ~ 12 Ω	0 ~ 120 Ω	0 ~ 1200 Ω
許容差	最大目盛値の $\pm 3\%$ 以下 (測定コードの抵抗値を差し引いた値)		

※出力電流は精密測定時と同じ

3-5 交流電圧計測定範囲および許容差

レンジ	AC600V	地電圧 AC12V
測定範囲	0 ~ 600V	0 ~ 12V
周波数	50/60Hz	
許容差	最大目盛値の $\pm 3\%$ 以下	

3-6 入力インピーダンス

レンジ	入力インピーダンス
AC600V	2.8MΩ
地電圧 AC12V	25 k Ω

3-7 消費電流（電池電圧 12 V DC 時の代表値）

レ ジ	出力短絡時	定格電流出力時	中点測定時	待機時(∞)	
絶縁抵抗計	1000V	155 mA	270mA/1MΩ	145mA/50MΩ	145mA
	500V	145 mA	190mA/0.5MΩ	130mA/2MΩ	130mA
	250V	130 mA	145mA/0.25MΩ	120mA/1MΩ	120mA
	125V	130 mA	130mA/0.125MΩ	115mA/0.5MΩ	120mA
接 地 抵 抗 計 精 密 測 定	190mA				
接 地 抵 抗 計 簡 易 測 定	140mA				
地 電 圧	50mA				
BATT.CHECK時	200mA				
スケール照明点灯	70mA増加				

3-8 測定回数 電池有効範囲内で可能な測定回数（5秒間測定、25秒間休止）

レンジ		試験抵抗	電池有効範囲内で可能な測定回数
絶縁抵抗計	1000V	1MΩ	1,000回以上
	500V	0.5MΩ	2,000回以上
	250V	0.25MΩ	3,000回以上
	125V	0.125MΩ	3,500回以上
接地抵抗計	精密×100Ω	1200Ω	3,000回以上
	簡易×100Ω	1200Ω	4,000回以上

3-9 一般仕様

使用温湿度範囲： 0℃～+ 40℃ 85%以下（結露のないこと）

保存温湿度範囲： -10℃～+ 50℃ 75%以下（結露のないこと）

応答時間： 絶縁抵抗計： 3秒以内

接地抵抗計： 4秒以内

注記

- 絶縁抵抗測定において容量性負荷の場合は表示が安定するまでに時間がかかることがあります。

温度の影響 : 周囲温度を20℃から±20℃変化させたとき20℃の表示値からの変化は下記の点で±5%以下とする。
 絶縁抵抗計……中央表示
 接地抵抗計……10Ωの目盛の点

電 源 : 単3形乾電池(R6PまたはLR6)×8本
 最大定格電力 : 3.5VA
 絶縁抵抗 : 電気回路と外箱間で100MΩ以上/DC.1000V
 耐電圧 : 電気回路と外箱間でAC5150V(50/60Hz)/5秒間
 過負荷保護 : 測定端子間に下表の交流電圧(50/60Hz)を10秒間印加後異常がないこと

絶 縁 抵 抗 計	1000Vレンジ	A C 1200 V
	その他のレンジ	A C 600 V
接 地 抵 抗 計	すべてのレンジ	A C 250 V
交 流 電 圧 計		A C 750 V
地 電 圧 計		A C 250 V

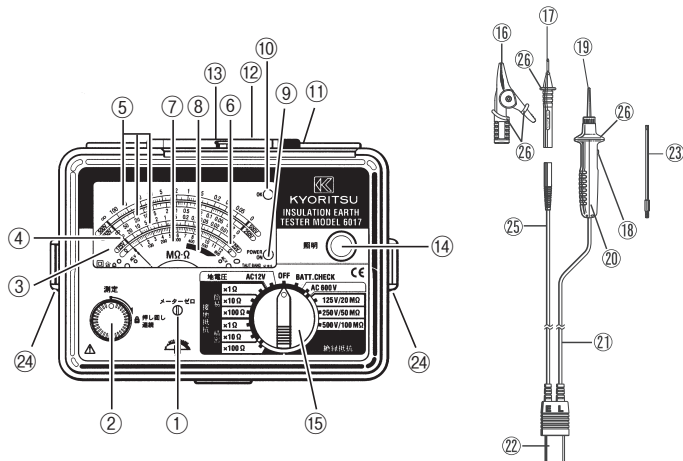
本体外形寸法 : 本 体 130(L)×183(W)×100(D)mm

質 量 : 約1000 g (乾電池を含む)

付 属 品

MODEL 7103A	リモートスイッチ付測定コード	× 1
MODEL 7131B	安全ワニグチクリップ	× 1
MODEL 7161A	フラットテスト棒	× 1
MODEL 9092	コードケース	× 1
MODEL 8017	先端金具・ロング	× 1
単3形乾電池	LR6	× 8
MODEL 9121	肩掛ベルト	× 1
取扱説明書		× 1

4. 各部の名称



- | | |
|---|-------------------------|
| ①メーターゼロ調整器 | ②測定スイッチ |
| ③スケール板 | ④指針 |
| ⑤絶縁抵抗目盛 | ⑥接地抵抗及び地電圧目盛 |
| ⑦交流電圧目盛 | ⑧電池有効範囲 |
| ⑨動作表示LED | ⑩OKランプLED |
| ⑪プローブソケット | ⑫スライドカバー |
| ⑬接地抵抗精密測定用端子
(オプションの精密測定用アースコードM-7095使用時に使用します。) | ⑮レンジスイッチ |
| ⑭ライトスイッチ | ⑯標準先端金具(モールド) MODEL8256 |
| ⑰安全ワニグチクリップ | ⑲リモートスイッチ付測定コード |
| ⑱リモートスイッチ | ⑳先端金具(ロング) |
| ㉑ラインプローブ | ㉒アースライン |
| ㉓プローブコネクタ | |
| ㉔ストラップベルト用ガイド | |
| ㉕保護用フィンガガード | |

※保護用フィンガガード：操作中の感電事故を防ぐため、最低限必要な
 治面及び空間距離を確保するための目印です。

5. 測定準備

5-1 電池のセット

⚠危険

- 測定中は電池の交換は絶対にしないでください。

⚠警告

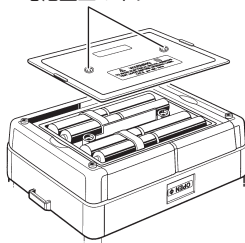
- 感電事故を避けるため、電池交換の際には本体のレンジスイッチを必ずOFFにし、測定コードを本体より外してください。又、電池交換後は必ず電池蓋をネジ締めしてから使用してください。

⚠注意

- 電池は新しいものと古いものとを混ぜて使用しないでください。
- 電池の極性を間違わないように、ケース内の刻印の向きに合わせて入れてください。

- ① レンジスイッチをOFFにし、測定コードを外します。
- ② 本体裏側の電池蓋止めネジをゆるめ電池蓋を外して電池をセットします。
- ③ 電池セット後、電池蓋をかぶせ、ネジをしっかり締め取り付けてください。
- ④ 電池交換の際は、8本すべて新しいものをご使用ください。

電池蓋止めネジ



注記

- 長期間使用されない場合は、電池の液漏れによる腐食を防ぐため電池を取り外し保管してください。

5-2 零位調整（メーターゼロ調整）

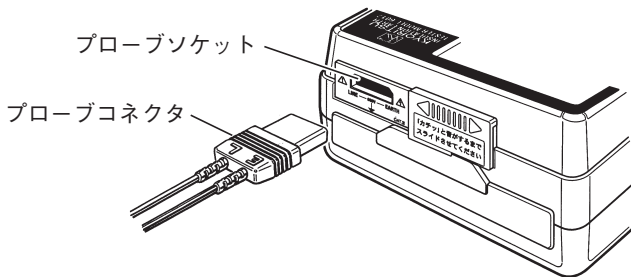
レンジスイッチ及び測定スイッチはOFFの状態ではメーターゼロ調整器をドライバー等で回し、 ∞ 目盛の中央に正しく合わせます。

5-3 測定コードのセット

スライドカバーを精密測定端子側へスライドさせ測定コードのプローブコネクタを、本体のプローブソケットのコネクタの向きに合わせて確実に差し込んでください。

注記

- 購入時は上記のようにセットされプローブソケット側がオープンされています。接地抵抗測定の際精密測定時以外スライドカバーの位置はこの状態でお使いください。



⚠ 危険

- レンジスイッチが絶縁抵抗、接地抵抗の位置にある場合には、測定スイッチ又は、リモートスイッチを押すと測定コードの先端金属部分には高電圧が発生しています。金属部分には触れないようにしてください。感電の恐れがあります。

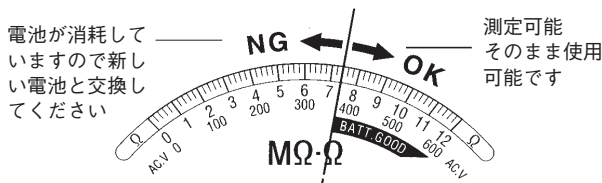
5-4 電池電圧の確認

- ① レンジスイッチをBATT. CHECKの位置にします。
- ② 測定スイッチ又は、プローブのリモートスイッチをONにします。
- ③ 指針が振れますので、下記の図を参考にスケール板上のBATT. GOODマークにより電池電圧を確認してください。

電池が消耗している場合には5-1の電池のセットの項に従い電池を交換してください。

△注意

- 電池寿命を短くしますので、測定スイッチを押し続けたり、ロックすることは避け、確認は短時間で実施してください。



5-5 動作表示LED

レンジスイッチをBATT. CHECK、絶縁抵抗、接地抵抗いずれかのレンジにセットし、測定スイッチをON又は、リモートスイッチをONにすると本器が動作状態であることを示す動作表示ランプ(赤色)LEDが点灯します。また、地電圧レンジでは内部回路のリレーを動作させるため動作表示ランプ(赤色)LEDが点灯します。

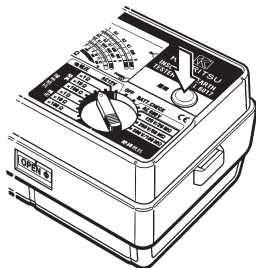
△注意

- 測定終了後は必ずレンジスイッチをOFFの位置にしてください。
OFF以外のレンジではスタンバイ状態になっており、測定スイッチを押さなくても回路に電流が流れ、電池が消耗します。特に地電圧レンジでは、常時50mAの消費電流がありますので注意してください。

5-6 スケール板の照明

暗い場所、及び夜間作業の際にはスケール板の照明をご使用ください。

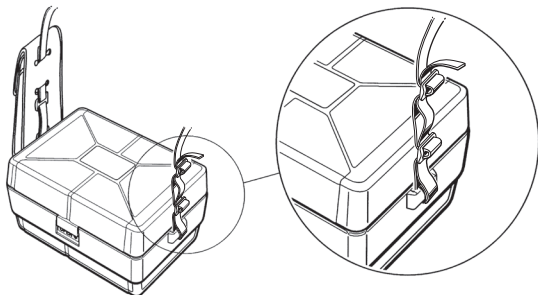
ライトスイッチを押すと、約60秒間点灯し自動的に消灯します。



5-7 ストラップベルトの取り付け方法

付属のストラップベルトを取り付けることにより、首にかけて測定することができます。

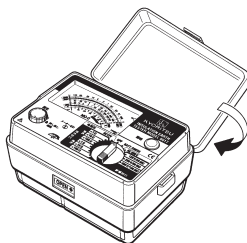
これにより、両手を自由に動かすことができ、作業をスムーズかつ安全に推し進めることができます。



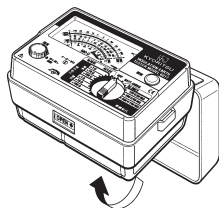
5-8 ケース上蓋の収納方法



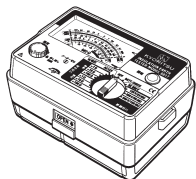
① ツメをはずしケース上蓋を開ける。



② 上蓋を180° 回転させる。



③ 上蓋を本体裏側に収納。



④ ツメを止める。

6. 測定

6-1 交流電圧の測定（停電の確認）

商用電源の確認ができます。また、絶縁抵抗の測定前に、被測定物が停電していることを確認できます。

特記

- この測定器は、どのレンジにおいても測定スイッチ又は、リモートスイッチを押さない状態で交流電圧の測定ができる設計になっていますが、交流電圧だけの測定の際には、できるだけ専用のAC.Vレンジをご使用ください。

万一、測定スイッチ又は、リモートスイッチを押してもプローブに高電圧が出力されることがなく、被測定物を損傷（焼損）させません。

また、直流電圧に関しても簡易的に測定することができます。交流電圧目盛の読み取り値に0.9を掛けてください。その値が、直流電圧に置き換えることができます。

ただし、極性の判別機能は兼ね備えていません。

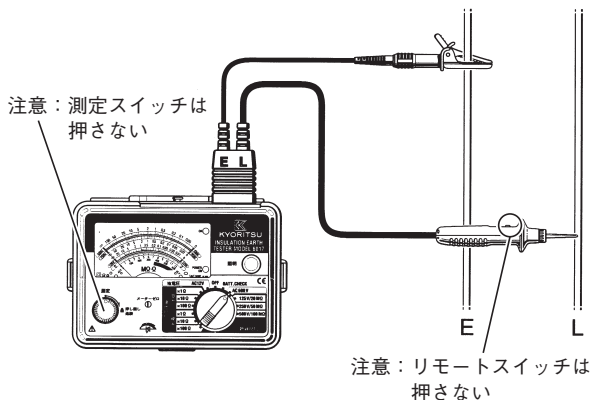
⚠危険

- 大電流を流せる工業用電力ライン等の電圧を測定する場合には、必ずブレーカーの2次側にて測定を行ってください。人身事故の危険性があります。
- 本器の過負荷保護電圧を超える電圧を絶対に入力しないでください。
- 電圧測定時にプローブの先端金具で電源ラインを短絡しないように注意してください。人身事故の危険性があります。
- 測定の際は指先等が、保護用フィンガードを越えることのないよう充分注意してください。

⚠注意

- 電圧測定中に測定スイッチ又は、リモートスイッチは絶対に押さないでください。本器や被測定物を損傷させる可能性があります。

- ① レンジスイッチをAC600Vレンジの位置にし、測定コードのアース側（黒コード）を被測定回路の接地側に接続します。
- ② 測定スイッチ及びリモートスイッチは押さないで、交流電圧のスケール目盛にて指示値を読みます。
- ③ 測定終了後レンジスイッチをOFFの位置にしてください。



注記

- 交流電圧測定時には、動作表示LEDは点灯しません。

6-2 絶縁抵抗の測定

電気機器や、回路の絶縁状態を調べるために、本器で絶縁抵抗を測定します。

被測定回路の電源を必ず遮断してから測定を開始してください。

測定の際には、被測定物に印加してもよい電圧を確認選定してください。

注記

- 被測定物によっては絶縁抵抗値の不安定なものがあり、指示が安定しない場合があります。
- 絶縁抵抗測定中に本器より発振音がすることがありますが、故障ではありません。
- 被測定物が容量性負荷の場合、測定に時間がかかる場合があります。
- 絶縁抵抗計において測定端子電圧は、アース端子からは+極が、ライン端子からは-極が出力されています。

測定の際にはアースプローブを接地端子（大地）側に接続します。従来より、大地に対する絶縁測定や、被測定物の一端が接地されているときには、大地側に+極を接続する方が抵抗値が小さく出るのが普通であり、絶縁不良の検知には最適であるとされています。

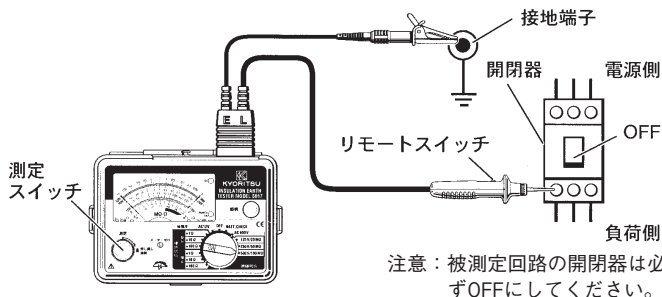
⚠危険

- 被測定回路の電源を必ず遮断してから測定を開始してください。
- 絶縁抵抗レンジで測定スイッチ又はリモートスイッチを押すと、測定コードの先端金属部分には高電圧が発生しています。測定コードの先端金属部分及び被測定回路に触れると感電しますので十分注意の上作業に当たってください。
- 測定の際は指先等が、保護用フィンガガードを越えることのないよう充分注意してください。

△注意

- 被測定物に電圧が印加されている状態で絶縁抵抗測定を行わないでください。本器又は被測定物を損傷させる可能性があります。

- ① 絶縁抵抗測定を行う前に被測定回路の活線チェックを必ず行ってください。
- ② 被測定回路（電圧のかかっていない設備部分）に印加してもよい電圧の絶縁抵抗レンジを確認選定してください。
- ③ 測定コードのアースライン（黒色）を被測定回路の接地端子に接続します。
- ④ 測定コードのラインプローブ（赤色）の先端を被測定回路に当て、測定スイッチ又はリモートスイッチを押し測定を開始します。
- ⑤ 選定したレンジの絶縁抵抗目盛で指示値を読みます。



- ⑥ 本器にはオートディスチャージ（放電）機能が搭載されています。

この機能により測定終了後は測定コードの接続はそのままの状態、測定スイッチ又はリモートスイッチをOFFにし、被測定回路に充電された電荷を放電させてください。

その放電の状態は交流電圧計の目盛にて確認することができます。

⚠危険

- 測定が終了してすぐに被測定回路に触れると、充電されている電荷で感電する危険性があります。
指針が目盛の左端に戻るまで、測定コードはそのまま接続しておき、被測定回路に充電された電荷を放電させてください。
- 測定の際は指先等が、保護用フィンガガードを越えることのないよう充分注意してください。

⑦ 測定終了後レンジスイッチをOFFの位置に戻してください。

6-3 絶縁抵抗の連続測定

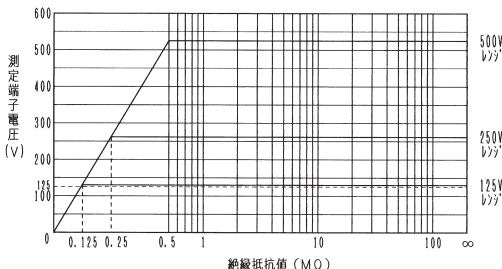
絶縁抵抗測定を連続して行う際には、測定スイッチを押しながら右に回してください。測定スイッチがロックされ、連続測定モードになります。

測定完了後、測定スイッチを左に回して元の位置に戻してください。

⚠危険

- 測定コードの先端金属部分には、連続して高電圧が発生しています。
- 測定コードの先端金属部分及び被測定回路に触れると感電する恐れがあります。測定時には先端金属部分に触れないように十分注意の上作業に当たってください。
- 測定の際は指先等が、保護用フィンガガードを越えることのないよう充分注意してください。

6-4 測定端子電圧特性（絶縁抵抗レンジ）



6-5 接地抵抗の測定

感電、火災、機器の損傷防止のための接地システム（屋内外の接地のための配線方法）が確実に行われているか、接地状態を調べるために、本器で接地抵抗を測定します。

測定の際には、簡易測定又は、精密測定（オプションの測定コード、補助接地棒を使用します）を選定後、各レンジを選定してください。

⚠危険

- 接地抵抗測定時には、E-C又はE-Pどちらかの端子間に最大で約AC50Vの電圧が発生しますので、感電しないように十分注意してください。
- 測定の際は指先等が、保護用フィンガガードを越えることのないよう充分注意してください。

6-6 精密測定

特記

- オプションの精密測定コード、補助接地棒を必ずご使用ください。付属のプロブではA種接地（旧第一種接地）の接地測定は認められていません。
- 1997年電気設備技術基準改正に伴い名称が下記の通り変更になりました。但しこれによる内容の変更はありません。

参 考

A種接地（旧第一種）：B種接地（旧第二種）

C種接地（旧特別第三種）：D種接地（旧第三種）

- ① スライドカバーをスライドさせ精密測定側にし、測定コードのプラグを各端子（E：緑色 P：黄色 C：赤色）に確実に差し込みセットしてください。



- ② 被測定接地体から約5～10m間隔で、ほぼ一直線上に測定コードを広げ、補助接地棒P端子用、C端子用をそれぞれ大地に深く打ち込み、本器のE、P、C端子からの測定コード（E：緑色 P：黄色 C：赤色）を被測定接地体、補助接地棒P、補助接地棒Cの順にワニグチクリップで接続してください。

また、E、P、Cの位置を一直線にできない場合は \angle E、P、Cを 100° 以上にセットしてください。このセット方法により、ほとんど誤差なく測定が可能になります。

補助接地棒は、できるだけ湿気の多い土の部分に打ち込んでください。止むを得ず乾燥したところ又は、小石の多いところや砂地の場合は、補助接地棒を打ち込んだところに水をかけて十分に湿気を持たせてください。

又、補助接地棒を打ち込むことのできないコンクリート上では、補助接地棒を寝かせ雑巾などの布地をかぶせ、その上より水（できれば塩水）をかける等の処置を施し測定を行ってください。

上記の作業が確実に行われ測定可能（補助接地抵抗が許容範囲内）であれば、測定スイッチを押すとOKランプが点灯します。もし、点灯していなければ測定コード、補助接地棒の状態の確認を再度行い測定可能状態（OKランプ点灯）にしてください。

③ 地電圧のチェック

上記の接続状態でレンジスイッチを地電圧AC12Vのレンジに切り替え地電圧の測定を行ってください。この際、地電圧が3Vを越えている場合には、接地抵抗の測定値に誤差を生じる可能性がありますので、被測定接地体を使用している機器の電源回路を遮断するなどして地電圧を低くしてから接地抵抗の測定を行ってください。

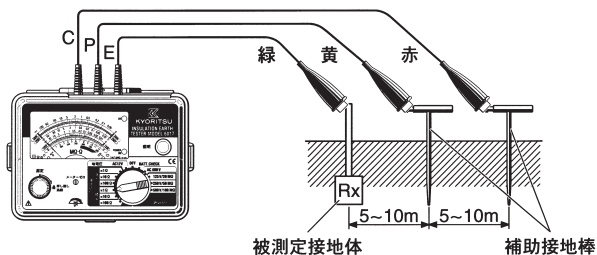
- ④ 精密測定の任意のレンジを選定し、測定スイッチを押してください。

この時のスケール板の指示値に対し選定したレンジが $\times 10\ \Omega$ の時には10倍、 $\times 100\ \Omega$ の時には100倍したものが求める接地抵抗値です。

注記

- 測定コードの接続が完全でなかったり、外れたりしている場合に本器の測定スイッチを押すと指針が振り切れますが故障ではありません。

- ⑤ 測定終了後、レンジスイッチをOFFの位置に戻してください。



⚠注意

- 地電圧が3V以上である場合には正確な測定ができません。被測定接地体を電気設備から切り離すか、回路のスイッチを切る等の処理を行い、地電圧を低くして測定してください。
- 測定コードをより合わせたり、接触した状態で測定しますと、誘導の影響を受ける場合がありますので、それぞれのコードを離してください。
- 補助接地抵抗が大きすぎる場合、指示値に誤差を生じることがありますので、水分の多い場所に補助接地棒 P、C をそれぞれ慎重に打ち込み、接続部分の接触を確実にしてください。

6-7 簡易測定

付属の測定コードで測定できます。

B種接地（旧第2種）：D種接地（旧第3種）等10Ω以上の接地抵抗でもよく、補助接地棒が打ち込めない環境時に大変便利な測定方法です。

この方法は、補助接地極として、既存のできるだけ小さい接地抵抗の接地極を利用し2電極法（E、P）で測定します。使用可能な接地極としては、金属製水道管等金属製埋設物、商用電源の共同アース又はビル等のA種接地（旧第一種）が利用できます。

⚠危険

- 商用電源の接地側を利用する場合は、必ず、接地側を確認してから接続し、感電しないように十分注意してください。
- 測定中は測定コードの先端金属部分には、連続して最大で約AC50Vの電圧が発生しており感電の恐れがあります。測定時には先端金属部分に触れないように十分注意の上、作業に当たってください。
- 測定の際は指先等が、保護用フィンガガードを越えることのないよう充分注意してください。

- ① 測定コードのアースライン（黒色）を既存の接地極へ接続、ラインプローブ（赤色）を被測定接地体へ接続してください。

商用電源の2次側コンセントで測定する場合は、アースラインアダプターをフラットテスト棒に交換します（8. アースライン用アダプターの説明および交換方法参照）。

接地側を確認後、電源コンセントの接地側にフラットテスト棒を差し込み、測定を行います。

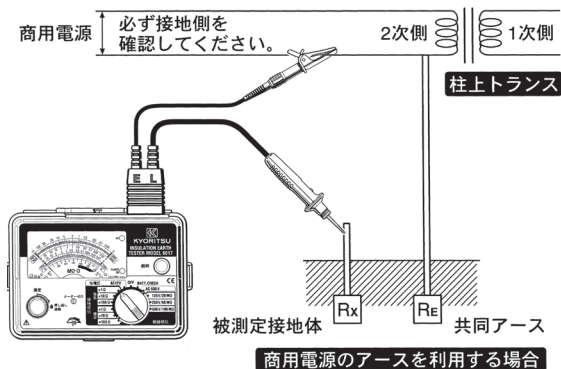
② 地電圧のチェック

上記の接続状態でレンジを地電圧 AC 12V のレンジに切り替え地電圧の測定を行ってください。この際、地電圧が3V を越えている場合には、接地抵抗の測定値に誤差を生じる可能性がありますので、被測定接地体を使用している機器の電源回路を遮断するなどして地電圧を低くしてから接地抵抗の測定を行ってください。

③ レンジを簡易測定の任意のレンジに設定し、測定スイッチ又はリモートスイッチを押し測定を開始します。

メーターが振り切れる場合は、大きな接地抵抗レンジに切り替えてください。

この時のスケール板の指示値に対し、レンジが $\times 10\Omega$ の時には10倍、 $\times 100\Omega$ の時には100倍したものが求めるおおよその接地抵抗値です。



- ④ 測定終了後、レンジスイッチをOFFの位置に戻してください。

注記

- 測定電流は、約2mAと低いため、漏電ブレーカーが設置されている商用電源のアース側を利用しても漏電ブレーカーを作動させることはありません。
- 簡易測定による測定値について
簡易測定の場合、2電極法ですのでP端子に接続した接地極の接地抵抗値 R_E が被測定接地抵抗値 R_X に加算されて、指示値に現れます。
指示値 = $R_X + R_E$
この R_E が、あらかじめ分かっている場合には、指示値より R_E をマイナスして真の抵抗値を求めてください。
- $\times 1 \Omega$ レンジで簡易測定（2電極法）を行う場合は、測定コードの抵抗値が加算され表示されます。
より正確に測定値を求めたい場合は、測定コードをショートして、その抵抗値を引いてください。

7. ラインプローブ用各種先端金具の説明及び交換方法

① 先端金具の種類

MODEL 8256：標準先端金具モールド

一般の測定時に使用します。（購入時にラインプローブに取り付けてあります）

MODEL 8072：標準先端金具

一般の測定時に使用します。

MODEL 8017：先端金具・ロング

標準先端金具では被測定物に接触できない場合に使用します。

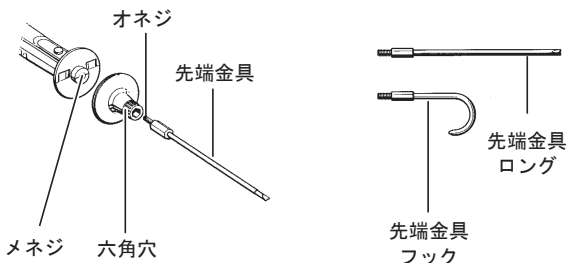
MODEL 8016：先端金具・フック（オプション）

被測定物に先端金具を引っかけて測定する際に使用します。

② 交換方法

ラインプローブ先端部分を左に回すことにより、装着している標準先端金具（MODEL 8072）を取り外すことができます。

交換したい先端金具をプローブ先端の六角穴に入れ、プローブ先端部分と一緒に右に回し、しっかりとネジ締めします。



8. アースライン用アダプターの説明及び交換方法

① アダプターの種類

MODEL 7131B：安全ワニグチクリップ

接地端子盤等のアースターミナル接続時に
使用します。

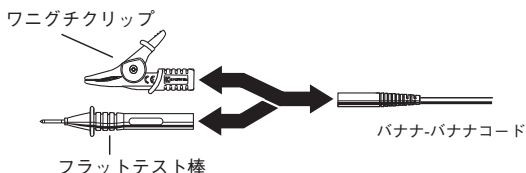
MODEL 7161A：フラットテスト棒

電源コンセントの接地側へ差し込み商業電
源を利用する際に使用します。

② 交換方法

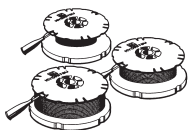
アースライン先端部分に装着しているアダプターを引き抜くことにより、取り外すことができます。

交換したいアダプターをアースライン先端部分に確実に差し込んでください。



9. 別売オプション品について

MODEL 7245A 精密測定コードセット



MODEL 7228A + MODEL 8200



MODEL 8032



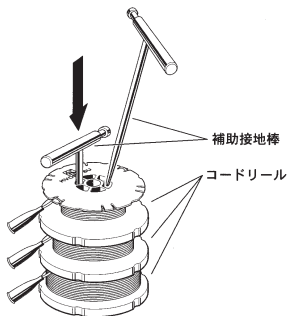
MODEL 9142

- MODEL 7228A アース測定コード
MODEL 8032 補助接地棒（2本）
MODEL 8200 コードリール（3個）
MODEL 9142 キャリングバッグ

9-1 コードリール付アースコードセットの使用方法

従来アースコードの収納は非常にやっかいな作業でしたが、コードリールを採用したことにより収納を容易にすることができました。

コードリールの穴に補助接地棒を差し込み測定コードを巻き取るだけの作業で、簡単に測定コードの収納ができ、収納の際に測定コードを振ったりしないため測定コード自体の寿命を延ばすことができます。



10. メーターカバー及び本体のクリーニングについて

本器のメーターカバーには、帯電防止剤を塗布していますので汚れをふき取る際には、乾いた布で強くこすらないでください。特に乾燥した冬場には注意してください。

もし、静電気により帯電した場合には、市販の帯電防止剤（薬局にて販売：エレガード等）又は、水で薄めた中性洗剤を柔らかい布に少量含ませ軽く拭いてください。

但し、有機溶剤を含む洗剤は絶対に使用しないでください。変形変色の恐れがあります。

なお、本体のクリーニングの際は、水で薄めた中性洗剤を柔らかい布に少量含ませ拭いてください。

⚠注意

- 有機溶剤を含む洗剤及び、シンナー、ベンジン等は絶対に使用しないでください。変形変色の恐れがあります。

特記

- 測定器は、大変デリケートな商品です。使用上の注意を守って末長くご愛用ください。

11. 故障と思われる前に

修理を依頼される前に下記の事項をもう一度チェックしてみてください。

症 状	チェック	処 置
バッテリーチェック時指針が振れない	電池は正しくセットされていますか	電池を正しくセットする
絶縁測定時測定スイッチを押して動作ランプが点灯しない	電池は正しくセットされていますか プローブコネクタ本体ソケットが確実に装着されていますか	電池を正しくセットする プローブコネクタ本体ソケットを確実に装着する
交流電圧測定時動作ランプが点灯しない		交流電圧測定時には動作ランプは点灯しない回路になっています
指針がバッテリーチェックのときしか振れない	測定コードに断線はありませんか	測定コードの断線を調べ断線の際には交換する
地電圧レンジで測定コードを装着していないのに動作ランプが点灯する		地電圧測定では動作ランプがレンジ切り忘れ防止のため点灯する回路になっています
接地抵抗レンジでプローブコネクタを装着してなくても測定スイッチを押すと動作ランプが点灯しメーターが振り切れる		内部ショートにより動作します。故障ではありません
接地抵抗測定時にOKランプが点灯しない	測定コードは本体に確実に装着されていますか 補助接地棒に測定コードは確実に装着されていますか 補助接地棒の水分は十分ですか 測定コードに断線はありませんか	測定コードは本体に確実に装着する 補助接地棒に測定コードは確実に装着する 補助接地棒に十分水分を与える 測定コードの断線を調べ断線の際には交換する

故障と思われる前にこれだけは再確認

- ：プローブコネクタは本体ソケットに確実に装着されていますか？
- ：電池は正しく装着されていますか？
- ：電池電圧は十分ですか？
- ：精密測定コードは本体端子に確実に装着されていますか？
- ：各種測定コードは断線していませんか？

⚠注意

- 本器は、過酷な試験をパスし最良の状態にて出荷をしておりますが、経年変化によりもし本器の動作に不具合を感じた場合は、直ちに使用を中止し点検修理を依頼してください。

12. アフターサービス

- 修理・校正を依頼されるには
お買い上げいただいた販売店または弊社サービスセンター修理グループにお送りください。
- 製品のご使用に関するお問い合わせは
弊社お客様相談室にご連絡ください。
- 校正周期について
本製品を正しくご使用いただくため、定期的（推奨校正周期1年）に校正することをおすすめいたします。
- 補修用部品の保有期間
本製品の機能・性能を維持するために必要な補修部品を製造打ち切り後、5年間を目安に保有しています。

■ホームページのご案内

www.kew-ltd.co.jp

- 新製品情報
- 取扱説明書／ソフトウェア／単品カタログのダウンロード
- 販売終了製品情報

ご使用に関するお問い合わせは

共立電気計器 お客様相談室

電話受付時間 9:00～12:00、13:00～17:00
(土・日・祝日・年末年始・夏季休暇を除く)



0120-62-1172

※折り返しお電話させていただくことがございますので
発信者番号の通知にご協力いただきますようお願いいたします。
※フリーコールをご利用いただけない場合は、最寄りの
弊社営業所へおかけください。

修理・校正に関するお問い合わせは

共立電気計器 サービスセンター

〒797-0045 愛媛県西予市宇和町坂戸480



0894-62-1172

修理・校正を依頼される場合は事前に電池の消耗、
ヒューズや測定コードの断線を確認してから
輸送中に損傷しないように十分梱包した上で
弊社サービスセンターまでお送りください。

